

2010年3月期  
第2四半期決算説明会

2009年11月2日  
ヤマハ株式会社

# 2010/3期 2Q決算の概要



## 2Qの外部環境

- 中国を除き、世界的な景気減速継続
  - ・米欧日を中心に、個人消費引き続き低迷
  - ・法人向けビジネスは、在庫調整一巡し、上向き傾向（自動車、デジタルカメラ、携帯電話関連事業等）
- 円高傾向継続。豪ドルは強含み

## 2Q(7~9月)の状況

- 対当初予想(4/30発表)減収増益。対前年同期では減収減益
- 売上高は、対当初予想2.9%(31億円)の減収。為替影響(+29億円)を除けば、当初予想に対し5.6%(60億円)の実質減収。  
対前年同期では、為替影響(▲107億円)を除いた実質ベースで、9.1%(116億円)の減収
- 営業利益は、対当初予想 19億円の増益。為替影響(+23億円)を除けば、実質4億円の減益。減収が主因

## 上期の状況

- 対前年同期、減収減益。8億円の最終赤字
- 売上高は、為替影響(▲187億円)を除いた実質ベースで、前年同期比11.0%(275億円)の減収
- 営業利益は、前年同期比 69.0%(92億円)の減益。減収に加え、為替損(88億円)、退職給付債務の利差損の発生(17億円)等による

# 2010/3期 上期業績



▶ 対前年同期減収減益、対当初予想(4/30発表)では減収増益

(億円)

	09/3 (上期) 実績	10/3 (上期) 実績	前年 同期比	10/3 (上期) 当初予想	予想比	(2Q) 実績	(2Q) 前期
売上高	2,505	2,043	▲18.4%	2,125	▲3.8%	1,049	(1,273)
営業利益 (営業利益率)	133	41 (2.0%)	▲69.0%	13	+218.3%	39	(77)
経常利益 (経常利益率)	133	28 (1.4%)	▲78.6%	▲2	—	33	(75)
当期利益 (当期利益率)	44	▲8	—	▲19	—	21	(33)

為替レート

(円)

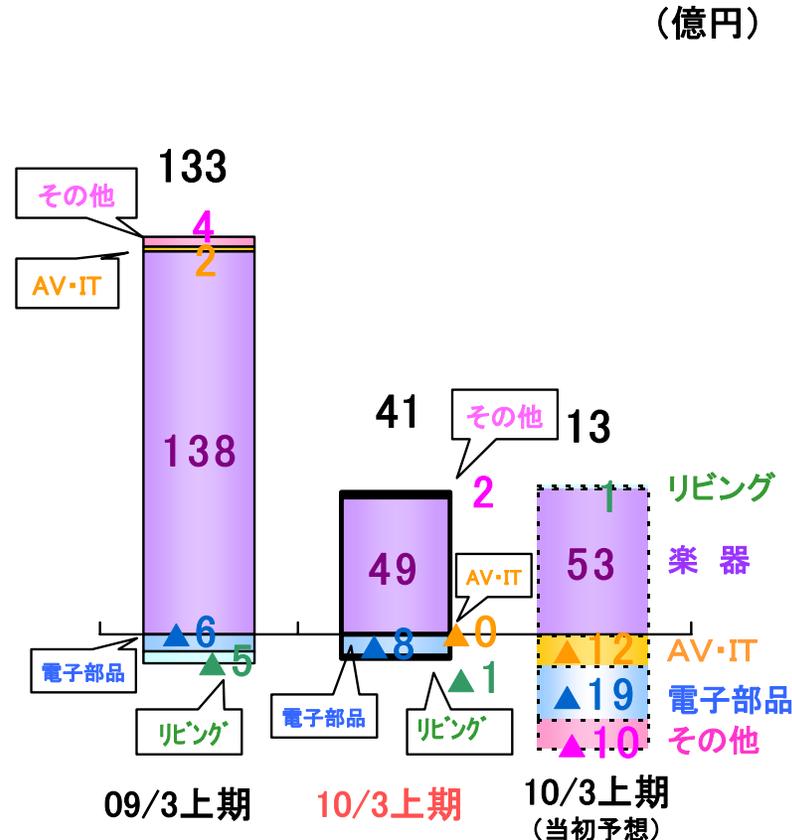
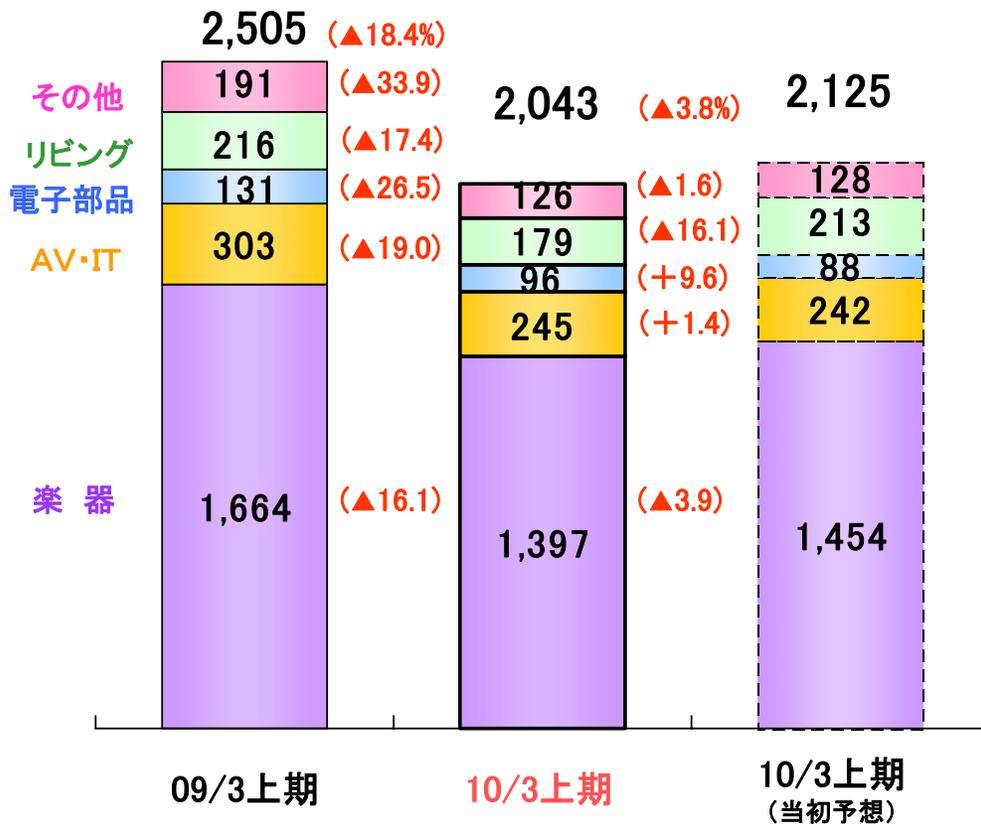
売上高	US\$	106	96	95	94	(108)
	EUR	163	133	120	134	(162)
利益	US\$	106	96	95	95	(108)
	EUR	157	128	120	132	(158)

# 2010/3期 上期事業別業績



## 売上高

## 営業利益



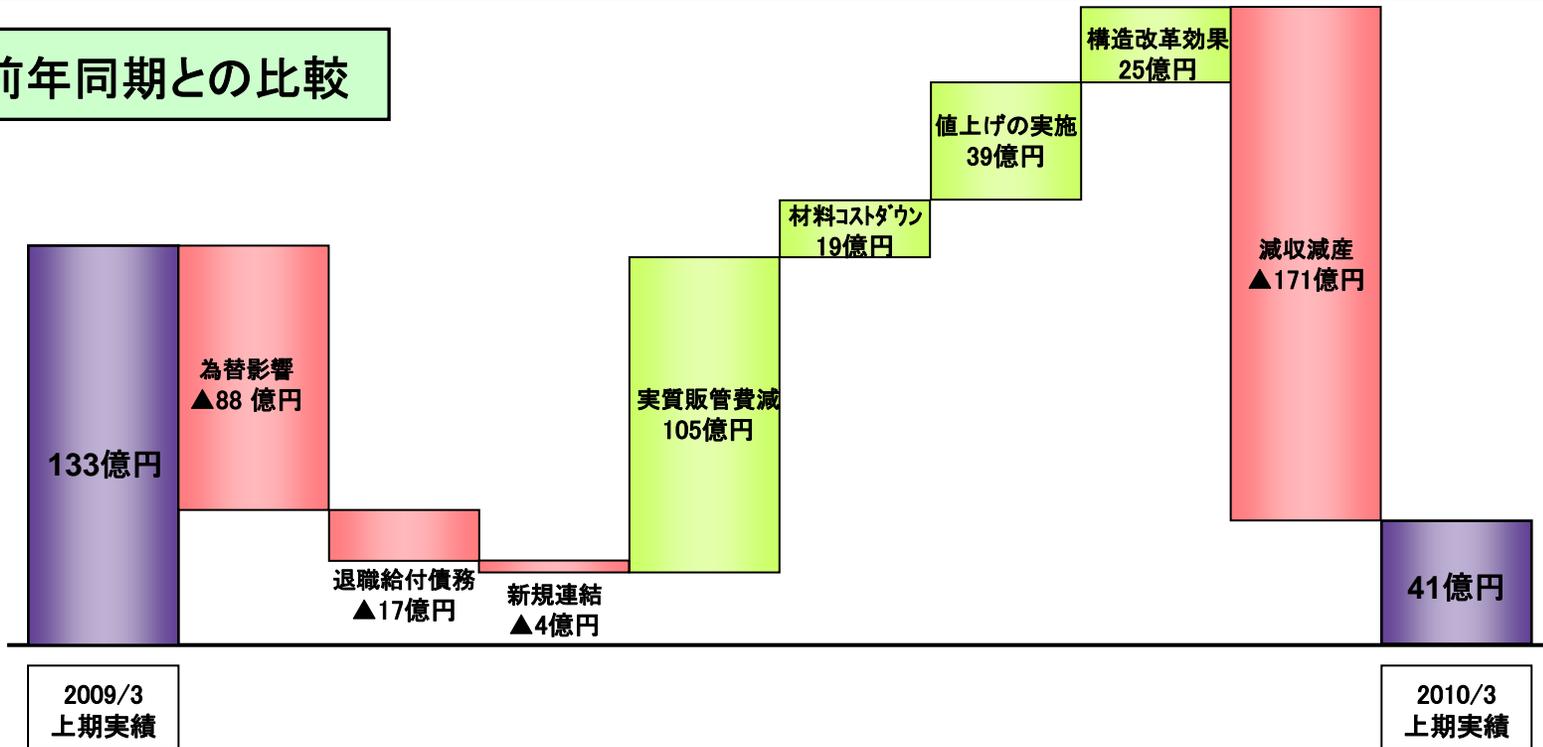
( )内は前年同期比  
または  
当初予想比

	為替影響額
前年同期比較	▲187億円 (楽器▲149億円、AV・IT▲38億円)
当初予想比較	+56億円 (楽器+44億円、AV・IT+13億円)

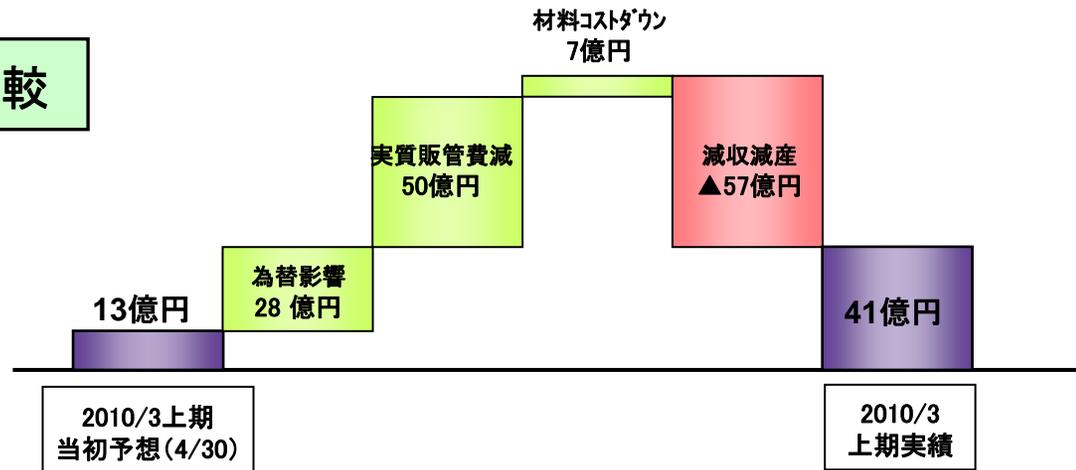
	為替影響額
前年同期比較	▲88億円 (楽器▲72億円、AV・IT▲16億円)
当初予想比較	+28億円 (楽器+22億円、AV・IT+6億円)

# 2010/3期上期営業利益増減要因

## 前年同期との比較



## 当初予想との比較



## 下期の事業環境

- 市況回復遅れ、年末商戦は当初の期待を下回る見込み
  - ・先進国市場での個人消費の低迷継続
  - ・設備音響需要不透明感継続
  - ・法人向けビジネスは、回復傾向継続
- 円高傾向継続

## 通期の業績見込み

- 景気、為替動向等先行き不透明のため、当初予想(4/30発表)を据え置き

## 下期の重点施策

- 年末需要期に向けた営業活動に注力
- 収益改善施策の継続
  - ・経費削減、コストダウンの継続
  - ・設備投資、研究開発費用の見直し
  - ・減産、在庫処分等による在庫管理の徹底
    - ・・・国内のピアノ、管楽器工場は、9月～3月で既に発表の休業に加え、更に休業追加の予定

# 2010/3期 通期業績予想



➤ 通期業績予想は、当初予想を据え置き

(億円、%)

	09/3 (前期実績)	10/3 (予想)	増減額	前期比
売上高	4,593	4,390	▲203	▲4.4%
営業利益	138	60	▲78	▲56.7%
経常利益	120	30	▲90	▲75.0%
当期利益	▲206	0	+206	—

# 2010/3期 通期事業別業績予想

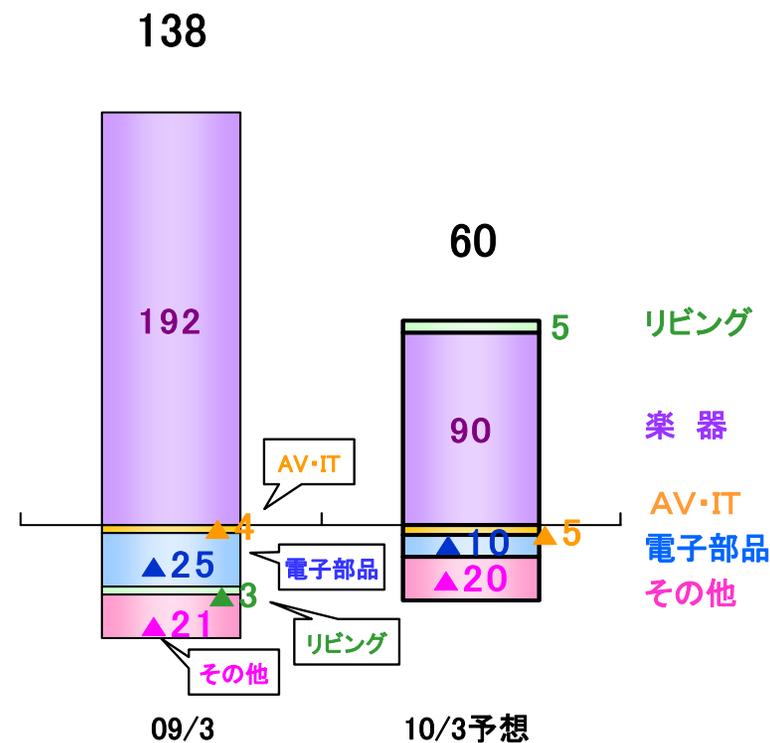
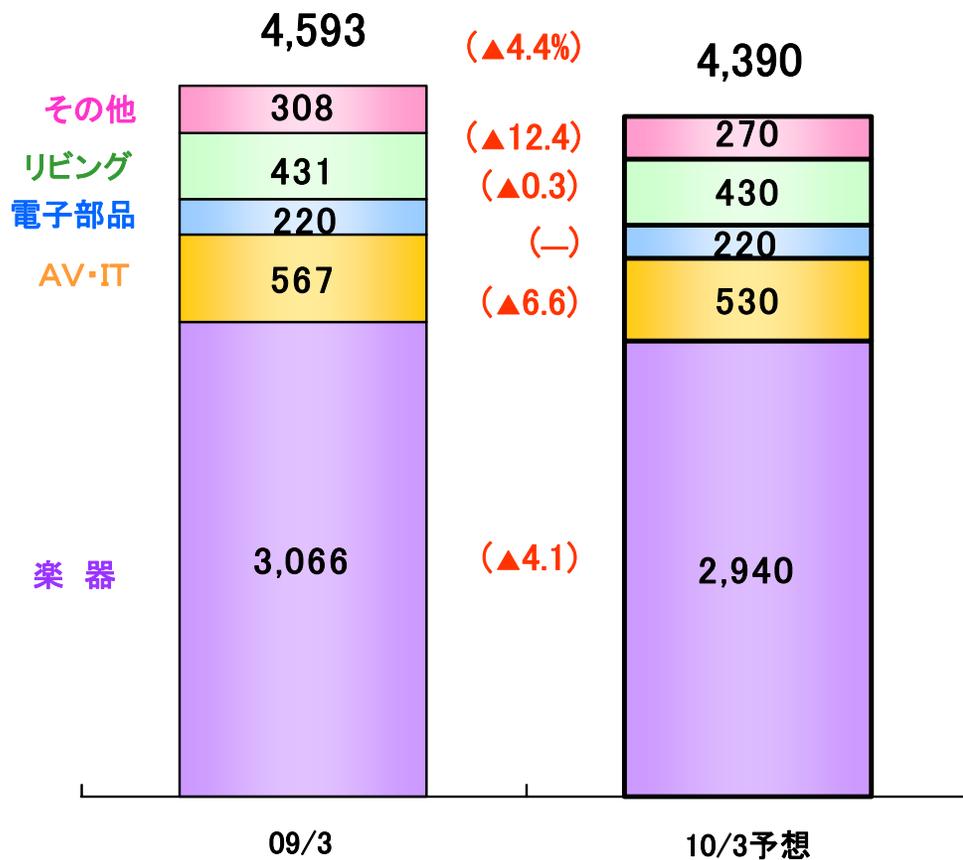


## 売上高

## 営業利益

(億円)

( )内は前期比

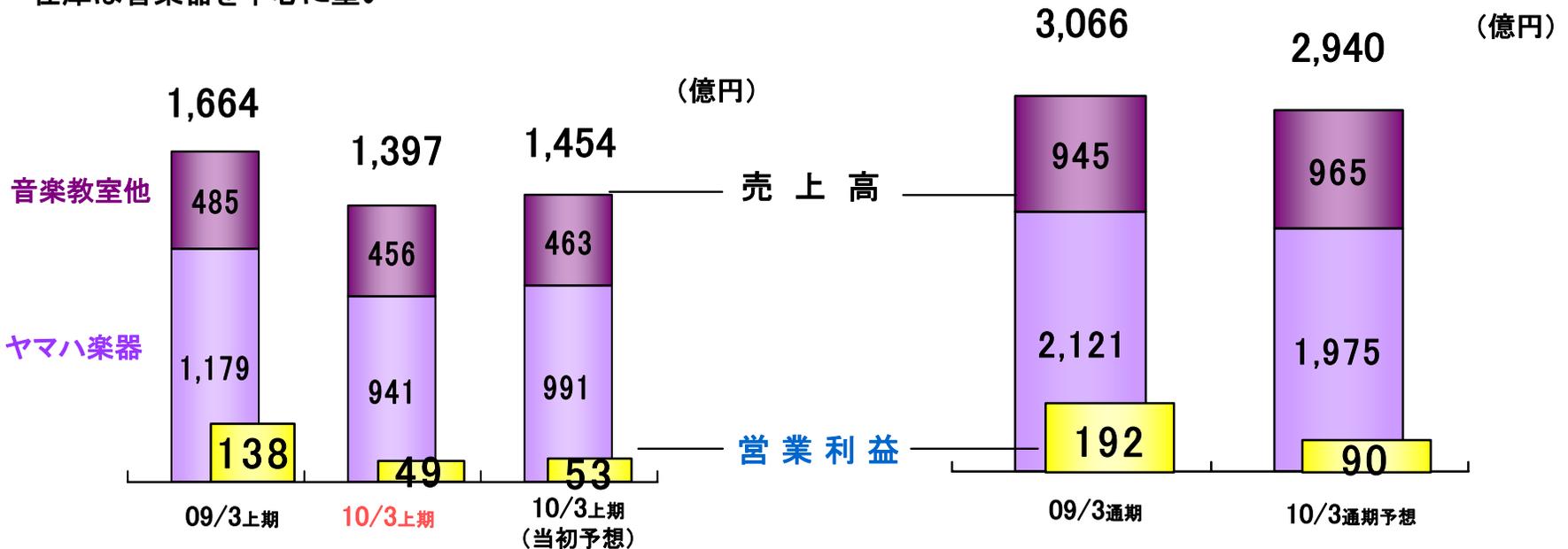


## 上期の状況

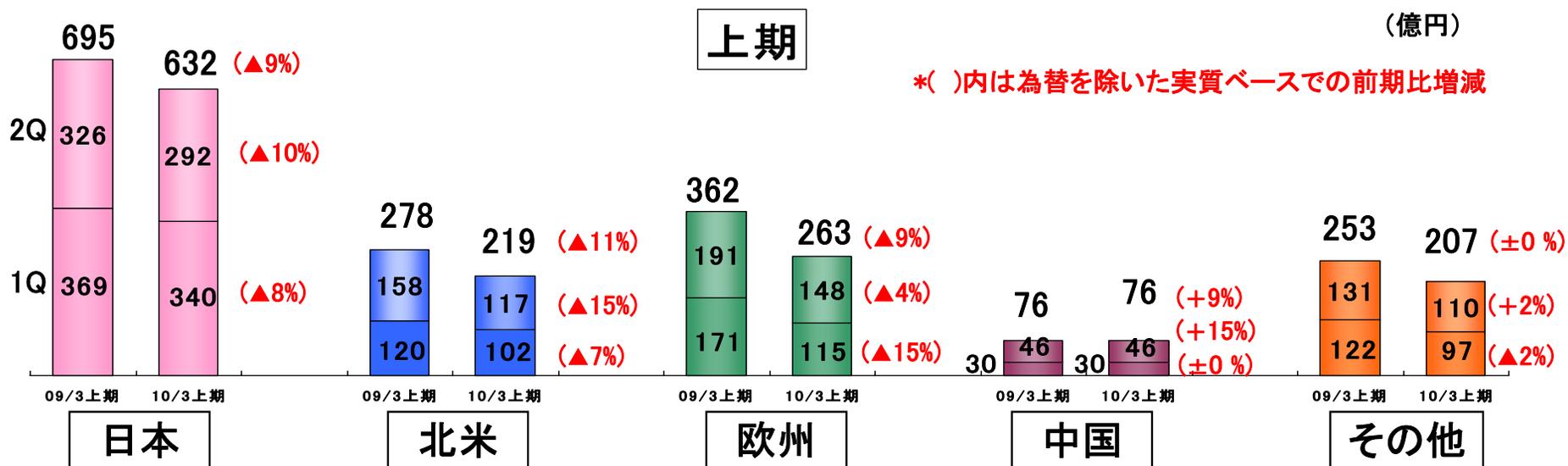
- ・対前年同期、当初予想とも減収減益
- ・為替影響を除いた実質売上高は、前年同期比7%（118億円）の減収。当初予想比でも、実質7%（101億円）の減収
- ・北米は対前年同期で実質2桁の減収。欧州、日本も対前年同期実質約9%の減収。一方、中国はピアノを軸に引き続き堅調に推移
- ・商品別には、管楽器、PA機器が対前年同期2桁の減収。ピアノは、値上げ効果はあるものの、欧州での落ち込みが大
- ・営業利益は、減収に加え、為替損、退職給付債務の利差損の発生等で対前年同期減益。当初予想との比較でも、減収に伴い減益
- ・在庫は管楽器を中心に重い

## 通期予想と下期の重点施策

- ・欧米年末需要期に合せた新製品の確実な市場投入
- ・中国を中心とする新興市場での拡販
- ・コストダウンと経費削減、在庫水準の適正化



# 楽器事業(地域別の販売状況)

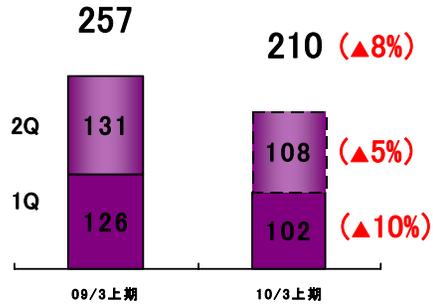


楽器地域別状況	
日本	景気先行き不透明感から消費は鈍く、低価格志向も一層高まる。ピアノは値上げによる駆け込み需要でほぼ前年をキャッチアップしたが、電子ピアノの単価ダウン・管楽器の苦戦継続で全体では前年を下回る。年末に向けて、新商品の投入と販促策の強化により下げ止めを図る。
北米	ピアノを始め鍵盤楽器ジャンルは底打ちの兆しはあるものの、管楽器の大幅落込み及び顧客の低価格志向による楽器全体での単価ダウンが進み、前年割れとなる。また音響機器も投資案件の減少続き、回復の兆しは見えていない。今後、鍵盤楽器の更なる販路再編と新商品投入で売り上げ確保を図る。
欧州	ドイツを中心とした中欧では前年以上の売り上げを確保したが、欧州全般では経済危機の影響を強く受けた南欧・東欧での市場縮小で前年割れとなる。販売店の資金繰り悪化し、ピアノや音響機器の売り上げ低迷。年末に向けては、値上げの一部還元やメリハリを付けた販売条件で下げ止めを図る。
中国	ピアノ、ポータブルキーボードが好調に推移。特にピアノは2桁成長を維持して販売を牽引し、全体で前年をオーバー。通期でも前年を上回る見通し。主力のピアノは販路開拓や商品ラインアップ充実で、今後更に拡販を目指す。
その他の地域	中東及び南米で一部苦戦したものの、アジア・オセアニアの各地域で、電子ピアノ、ギター・ドラムが好調に推移し堅調を維持。ロシア・インドでの進捗にやや遅れが見られるが、各種販促投入や為替好転要素もありアジア・パシフィック地域全体では堅調に推移。今後も国ごとにバラつきあるものの総じて堅調な推移を見込む。

# 楽器製品売上高の商品群別販売状況

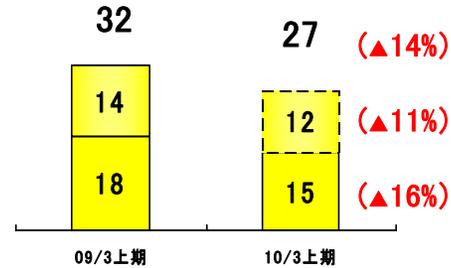


## ピアノ



日本は値上げによる駆け込みで一時的に需要増大し金額ベースでは前年同期比微減。  
 欧州は市況低迷により販売苦戦継続。  
 北米は新規販路開拓が売り上げに寄与し下げ幅縮小。  
 中国は依然2桁成長を継続。  
 年末商戦に向け、日本で新商品発売、中国で現地製廉価モデルを投入

## エレクトーン



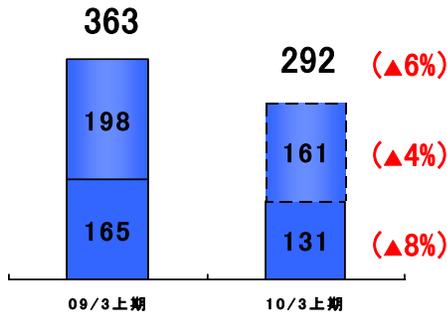
(億円)  
 \*( )内は為替を除いた実質ベースでの前期比増減  
 景気低迷のあおりが国内中心のエレクトーン販売不振を加速

## 電子楽器

顧客の低価格志向と単価ダウンの急激な進展で、日・欧の電子ピアノが苦戦。

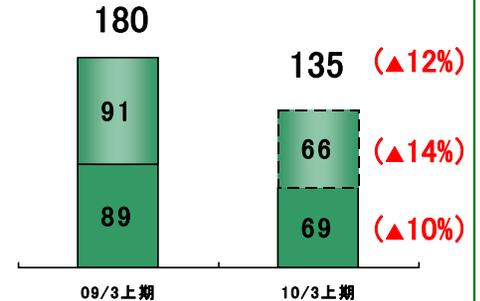
ポータブルキーボードは中南米・中東で苦戦も、全体として前年同期比若干の減収にとどまる。

年末に向け、一部モデルの価格対応や新商品投入で通期キャッチアップを目指す

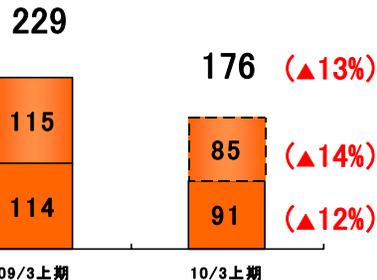


景気悪化による物件投資の延期・中止や買い控えが続き、欧・米・日の設備市場が低迷。主力のデジタルミキサーの伸び鈍化。  
 楽器周辺音響機器は北米での苦戦はあるものの、小型定番ミキサー復調もありアジア・中南米で堅調に推移。  
 内蔵ソフトのアップデートや販売条件の見直しで拡販を目指す

## PA機器

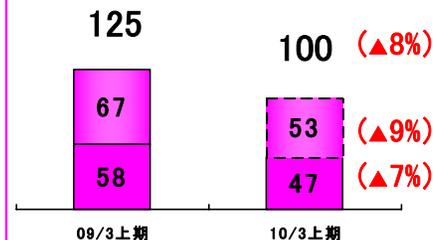


## 管楽器



米・日での個人向け中高級品の落込みと、北米での学校レンタル向けの回復兆候見えず。  
 欧州は独仏の販売堅調により全体を下支え。  
 その他の地域は概ね前年を確保。  
 年末需要期に向け販促活動を実施、売り上げ挽回を期す

## 弦打楽器



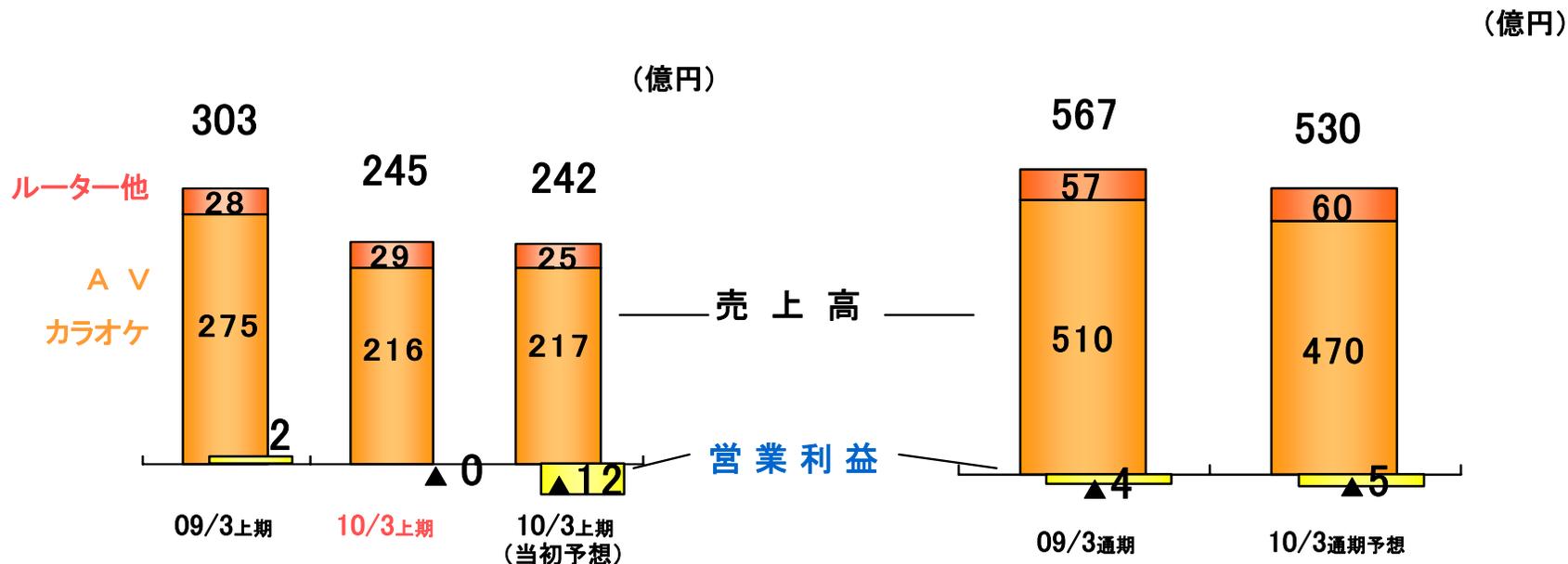
北米は、エレクトリックアコースティックギターで伸長するも、エレキギターが不調。  
 欧州・アジアもアコースティックギター堅調だが、エレキギターが低迷。  
 アコースティックドラム苦戦。電子ドラムも北米を中心に需要低迷。  
 販路拡大によるアコースティックギターの市場シェアアップと新技術を搭載した電子ドラムの発売で落ち込みを埋める

## 上期の状況

- ・対前年同期減収減益
- ・対当初予想では経費削減と為替益で損失幅縮小
- ・為替影響を除いた実質売上高は、前年同期比7%(20億円)の減収
- ・上期末在庫は、為替影響を除いた実質ベースでは、ほぼ当初予想並みの水準
- ・主力のオーディオは、フロントサラウンド商品を中心に、国内が堅調に推移するものの、北米市場で低迷

## 通期予想と下期の重点施策

- ・年末需要期でのAV商品拡販
  - 欧米を中心に中高級AVレシーバー拡販
  - フロントサラウンド商品拡販
  - ラインアップ充実による2chHiFiビジネス強化
  - デスクトップオーディオ等新ジャンル商品の強化拡大
- ・部品内製化促進と材料コストダウンによる製造原価の低減
- ・ルーターは商品優位性の訴求によるシェア拡大

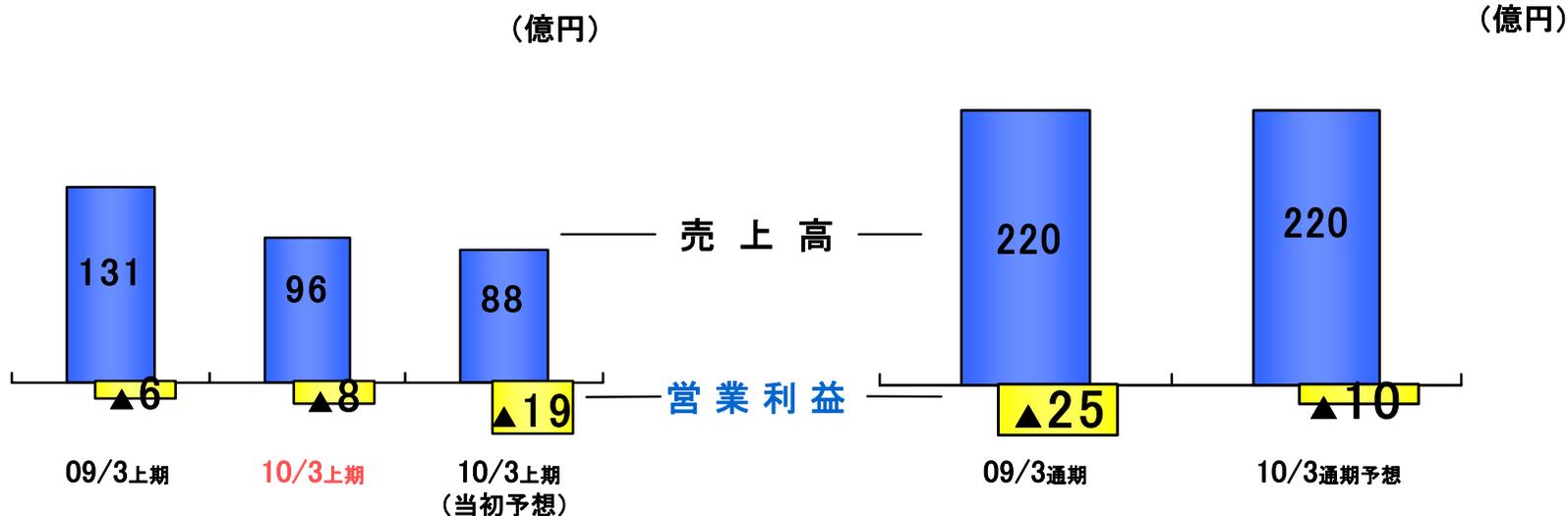


## 上期の状況

- ・対前年同期大幅減収。  
損益は営業損失を計上するものの、前期実施の固定資産減損による減価償却費の減少等により、対前年同期小幅な悪化
- ・対当初予想では増収増益
- ・携帯電話用音源LSIの対前年同期減少継続。デジタルアンプは増収
- ・在庫調整進展し、ほぼ適正水準

## 通期予想と下期の重点施策

- ・固定費削減による収益力強化
- ・デジタルアンプ、コーデック新商品投入による拡販。  
アミューズメント音源、画像LSIの維持拡大

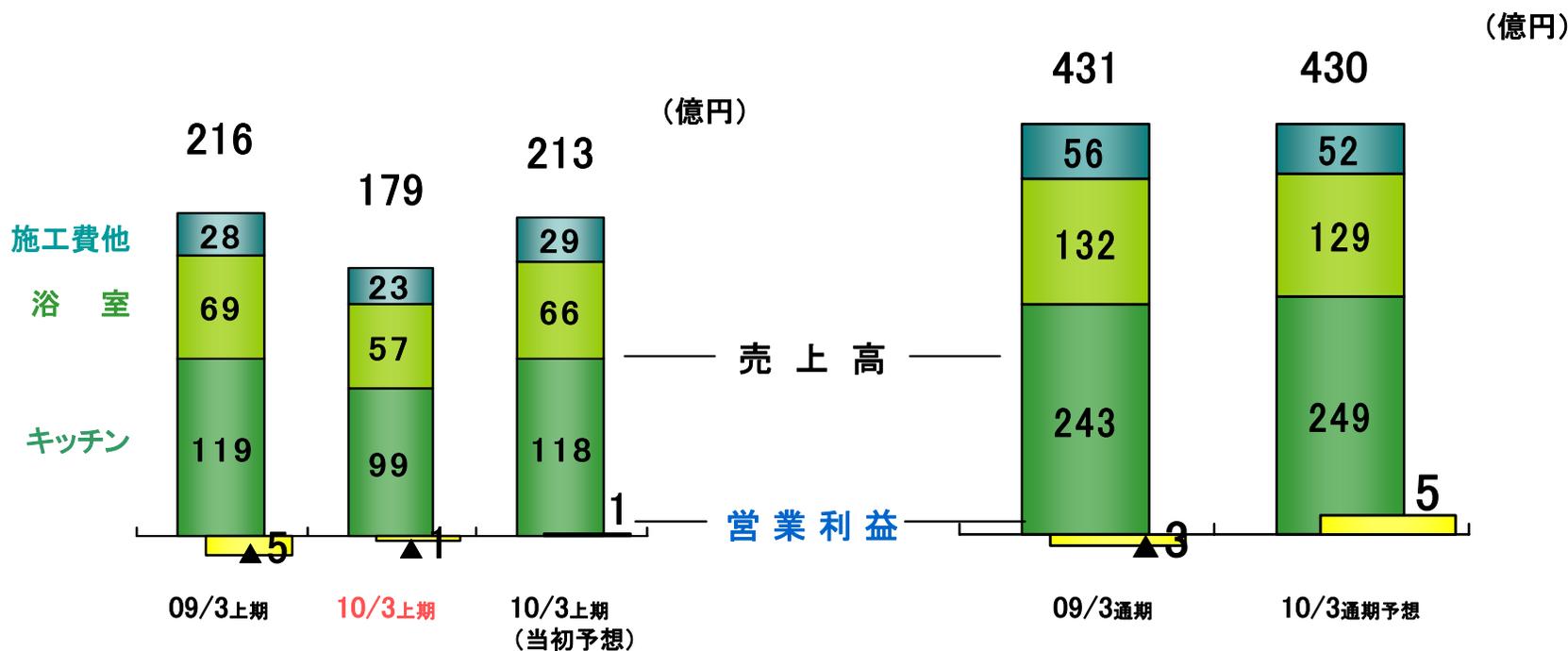


## 上期の状況

- ・対前年同期減収増益
- ・対当初予想では、大幅な減収となるものの、経費削減効果により小幅な減益
- ・4～8月の新築住宅着工数は、前年同期比30%を超える減少。持家住宅着工数も2桁の減少継続
- ・リフォームビジネス強化策の展開により、上期のリフォーム比率は若干の上昇(前年同期23%→26%)

## 通期予想と下期の重点施策

- ・リフォームビジネス強化拡大(リフォームに強い販路の開拓、リフォーム用部材販売)
- ・経費削減、材料コストダウン、製造原価の低減による損益分岐点の引き下げ



# その他の事業

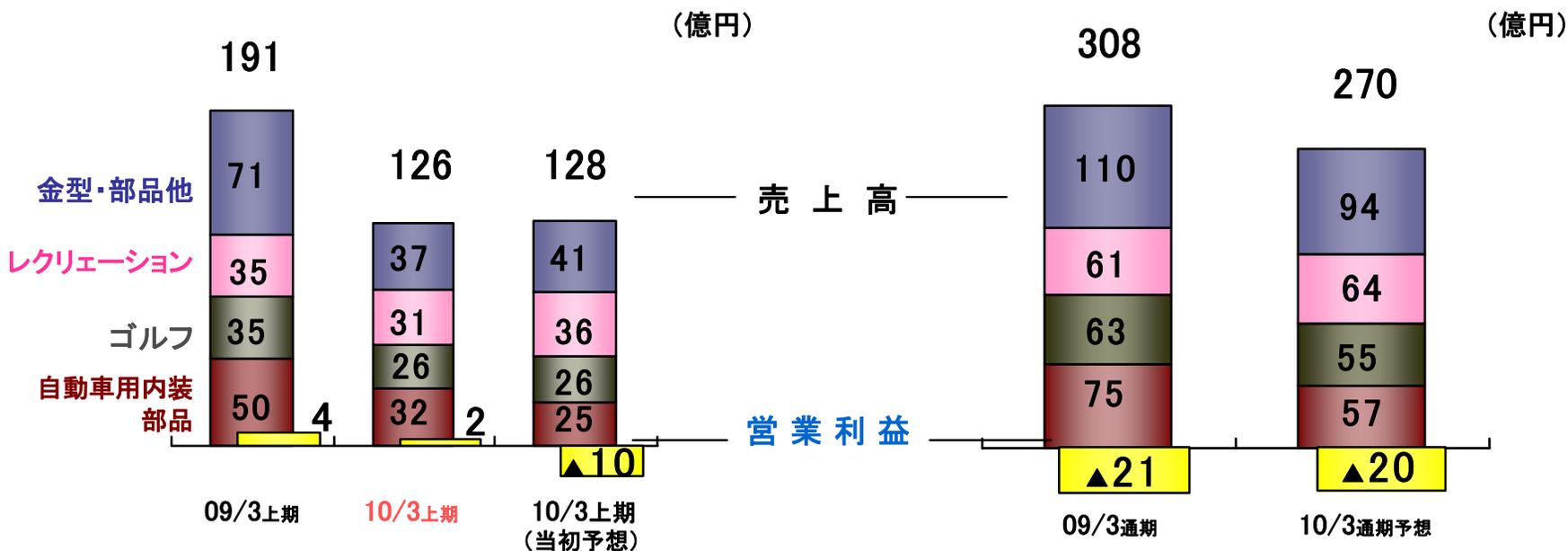


## 上期の状況

- ・対前年同期減収減益
- ・対当初予想では、集客数の低迷でレクリエーション減収、自動車用内装部品、マグネシウム部品などの部品事業が市況の回復で増収
- ・ゴルフは、国内、韓国市場とも、やや上向き傾向
- ・部品事業の増産と固定費削減効果により、営業黒字を計上

## 通期予想と 下期の重点施策

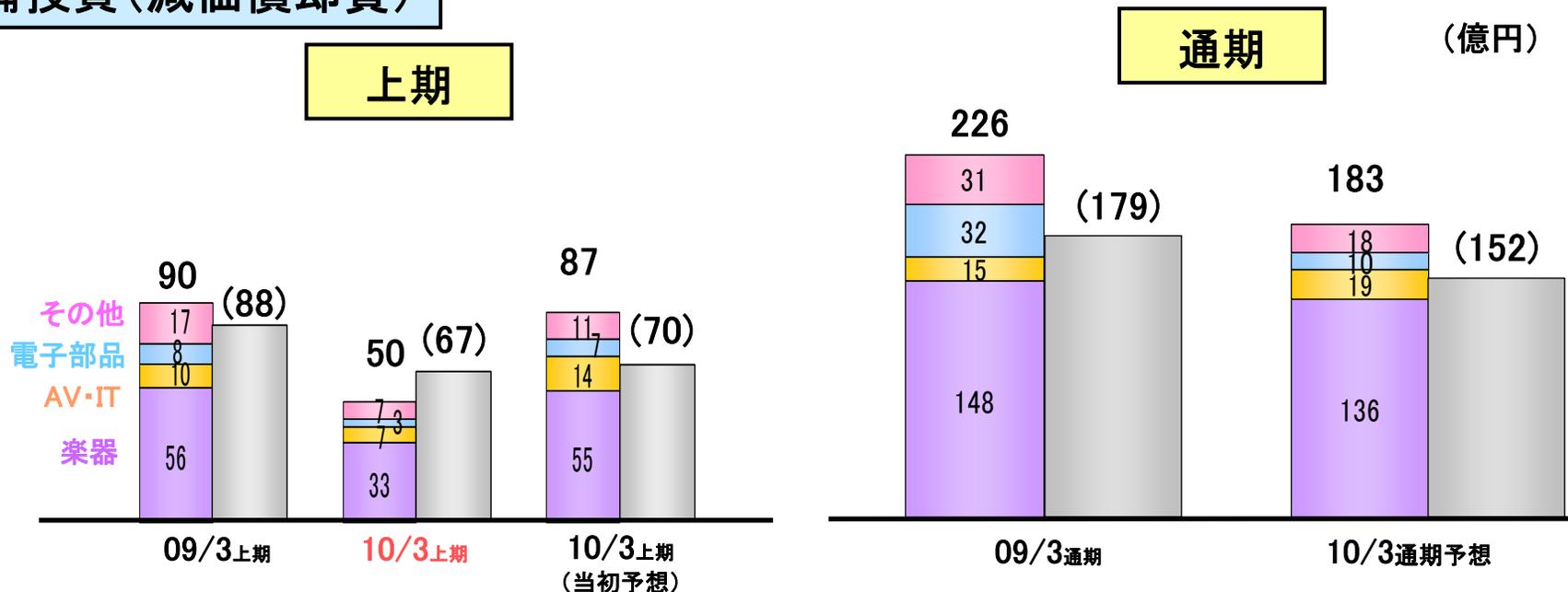
- ・自動車用内装部品は新モデルへのスムーズな対応と経費削減による損益分岐点の引き下げ
- ・ゴルフは競争力ある新製品開発によるシェア拡大
- ・レクリエーション事業は集客確保とコスト削減により収益改善を目指す
- ・マグネシウム部品のスムーズな生産終了



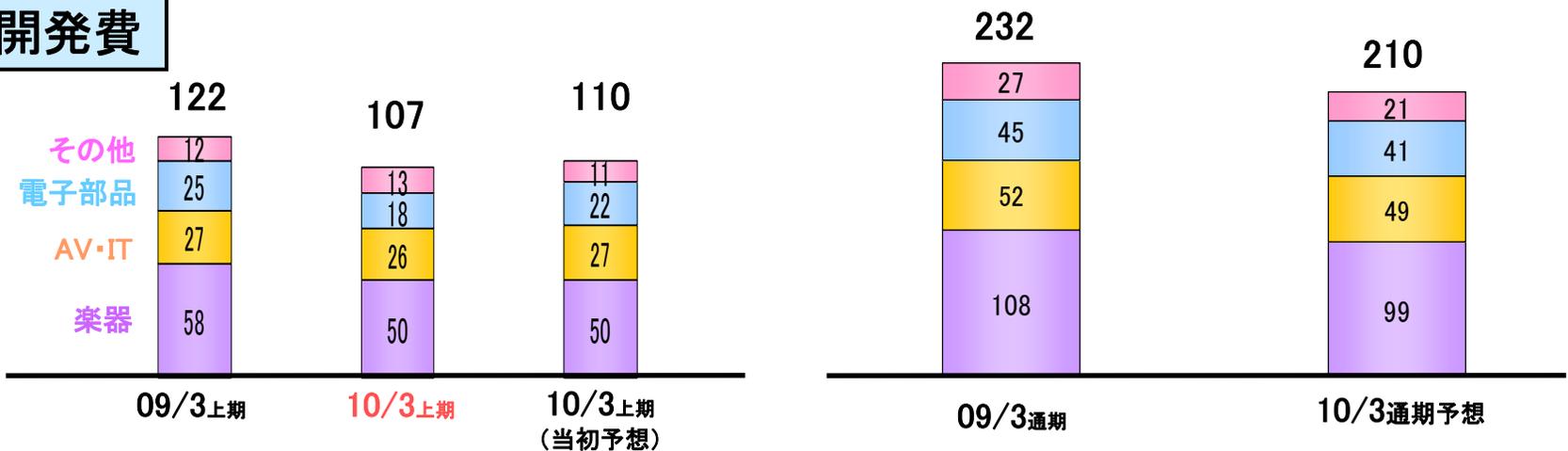
# 設備投資・減価償却費/研究開発費



## 設備投資(減価償却費)

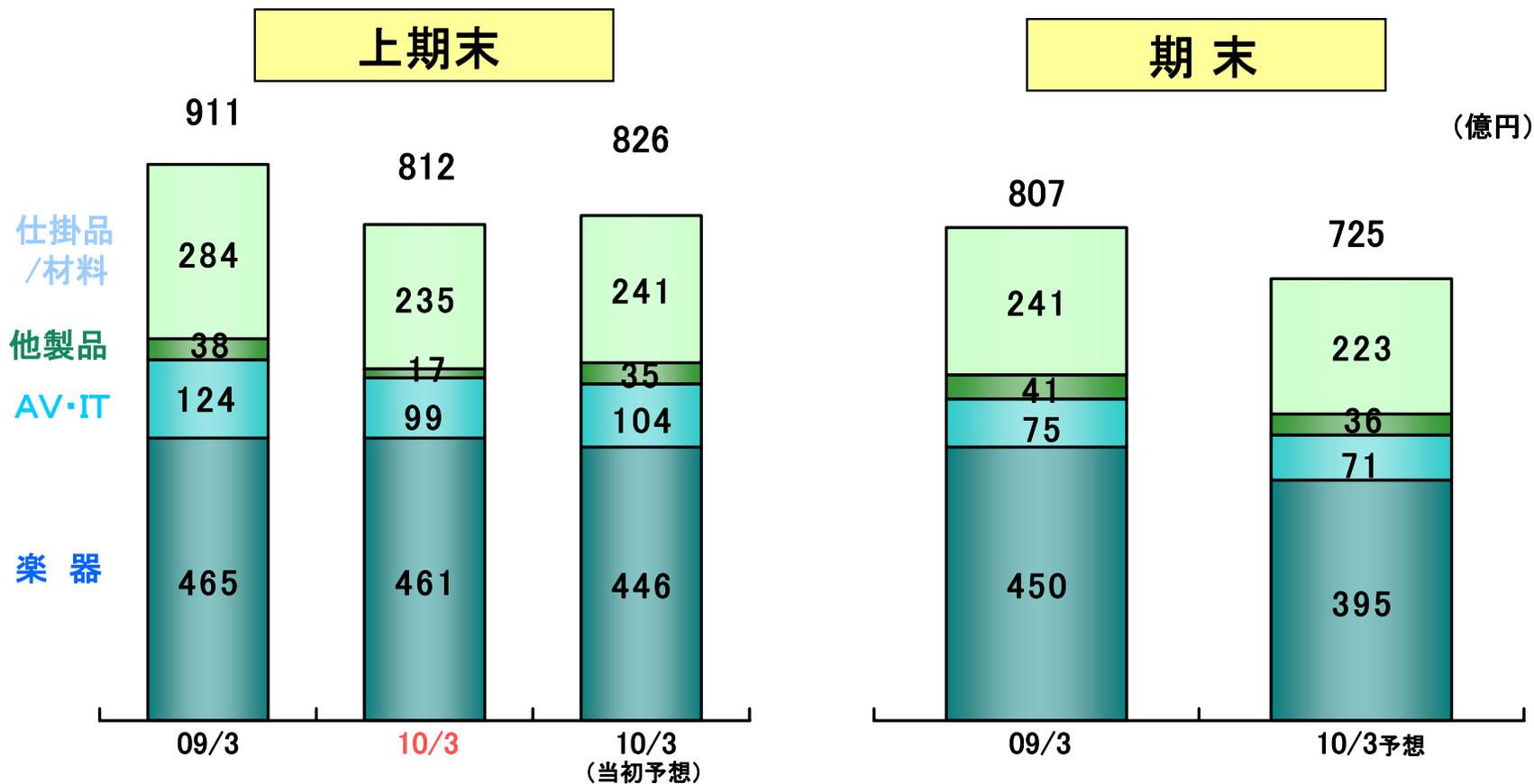


## 研究開発費



# 棚卸資産

- 9月末総在庫は対前年同期99億円の減少。  
(新規連結要因および為替影響を除けば実質36億円の減少)
- 当初予想に対しては、為替影響を除けば、実質24億円の減少



為替影響

85

▲10

22

# 予想貸借対照表



	上期末			期末予想		
	08/9末	09/9末	増減	09/3末	10/3末	増減
現預金	624	441	▲183	414	388	▲26
売上債権	724	579	▲145	505	660	155
棚卸資産	911	812	▲99	807	725	▲82
他流動資産	253	177	▲76	295	262	▲33
固定資産	2,489	2,091	▲398	2,069	2,116	47
<b>資産計</b>	<b>5,001</b>	<b>4,100</b>	<b>▲901</b>	<b>4,090</b>	<b>4,151</b>	<b>61</b>
仕入債務	379	259	▲120	256	336	80
借入金	305	201	▲104	192	169	▲23
リゾート預託金	169	162	▲7	167	166	▲1
他負債	1,011	937	▲74	957	1,057	100
純資産計	3,137	2,541	▲596	2,518	2,423	▲95
<b>負債純資産計</b>	<b>5,001</b>	<b>4,100</b>	<b>▲901</b>	<b>4,090</b>	<b>4,151</b>	<b>61</b>

※現預金残高には譲渡性預金を含む

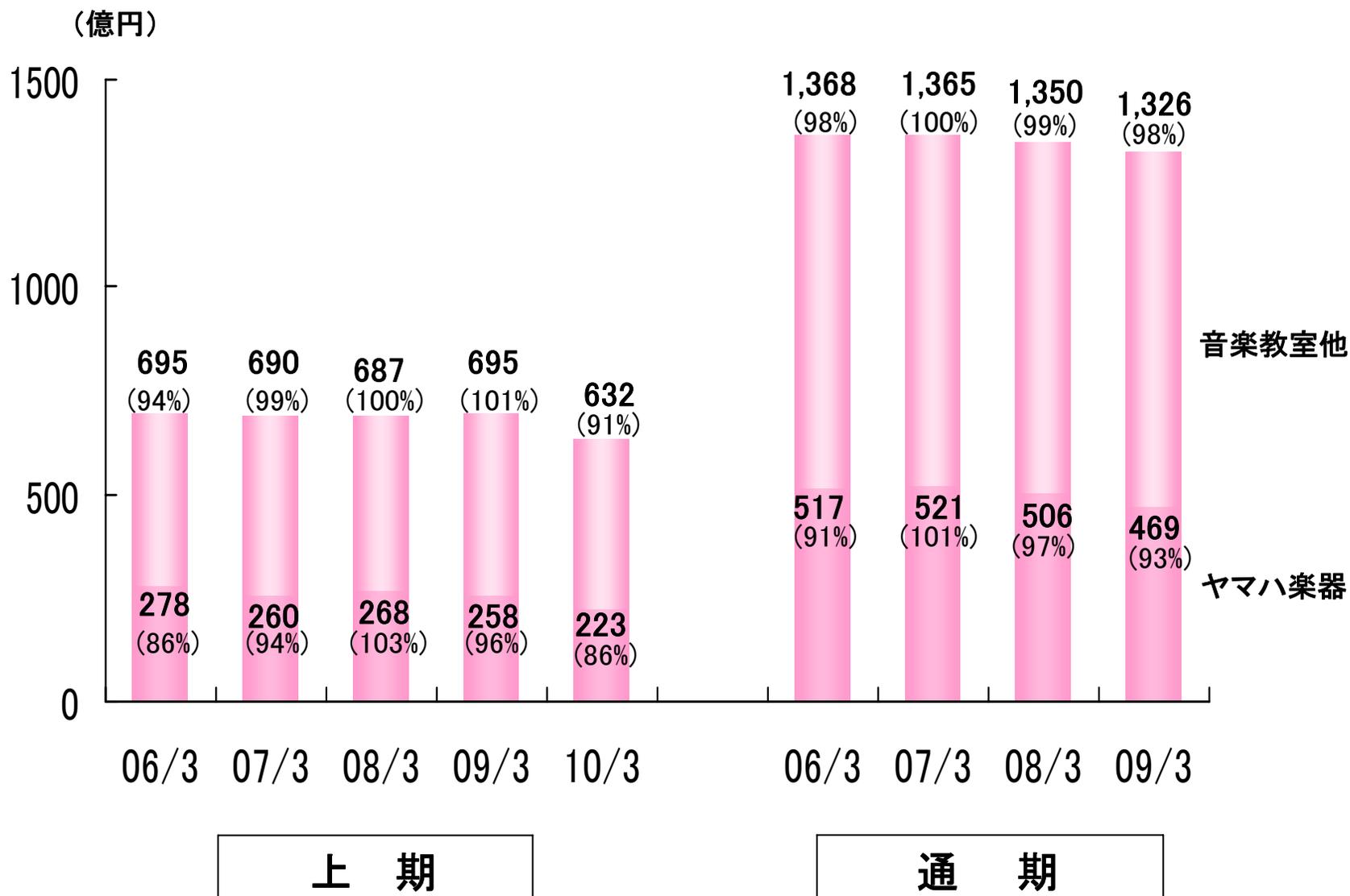
# 付属資料

# 2010/3期 上期営業外損益、特別損益



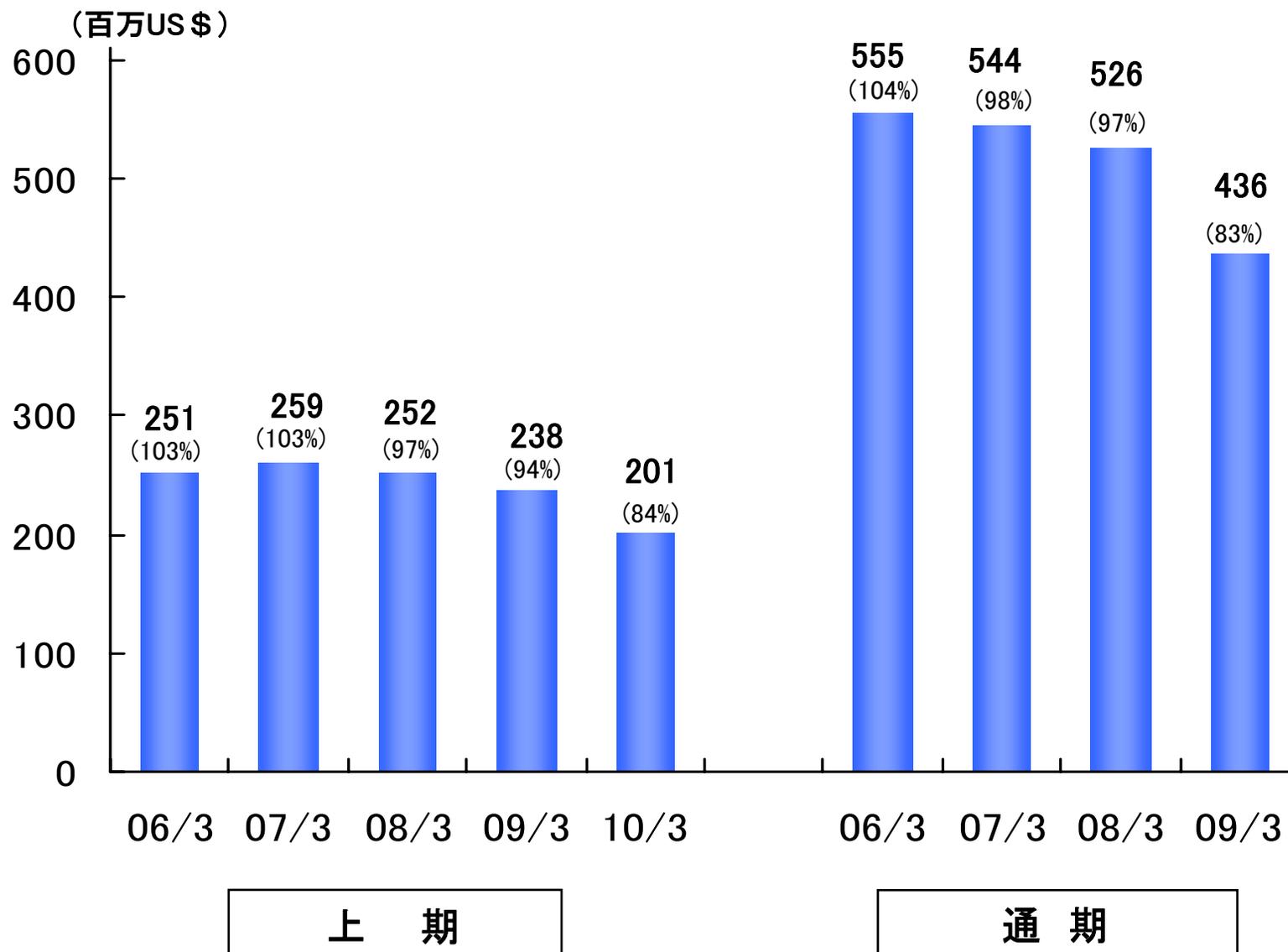
	09/3(上期)実績	10/3(上期)実績	10/3(上期)当初予想 (億円)
<b>営業外損益</b>			
金融収支	16	2	1
その他	▲16	▲15	▲16
計	0	▲13	▲15
<b>特別損益</b>			
固定資産処分損益	▲3	▲1	▲2
その他	▲1	▲1	▲2
計	▲4	▲2	▲4
<b>法人税他</b>			
法人税等	39	17	12
法人税等調整額	45	15	
少数株主利益	1	2	1
計	85	34	13

# 日本市場のヤマハ楽器・PA機器販売状況



( )内は前年同期比

# アメリカ市場のヤマハ楽器・PA機器販売状況

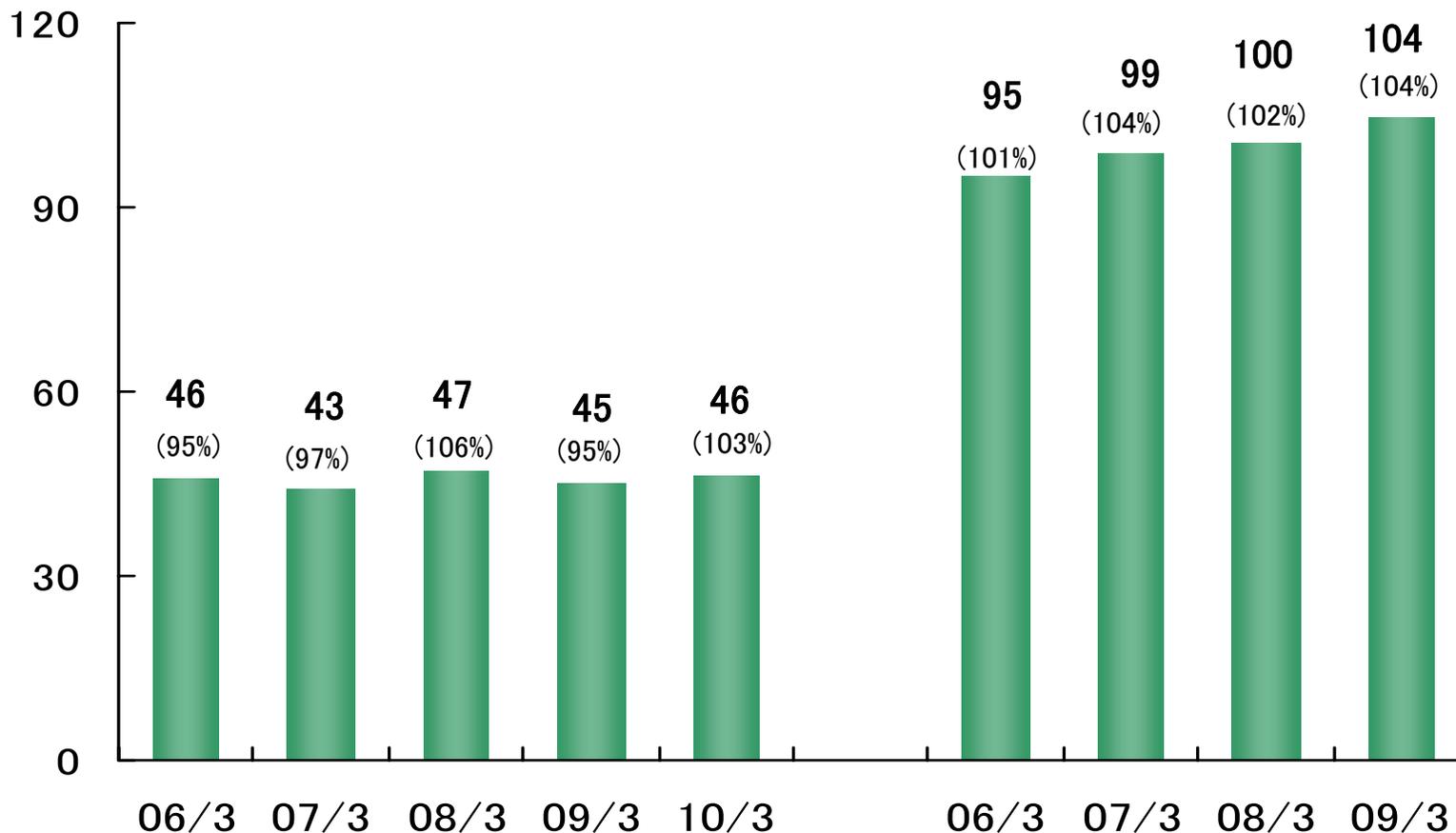


( )内は前年同期比

# ドイツ市場のヤマハ楽器・PA機器販売状況



(百万ユーロ €)



上 期

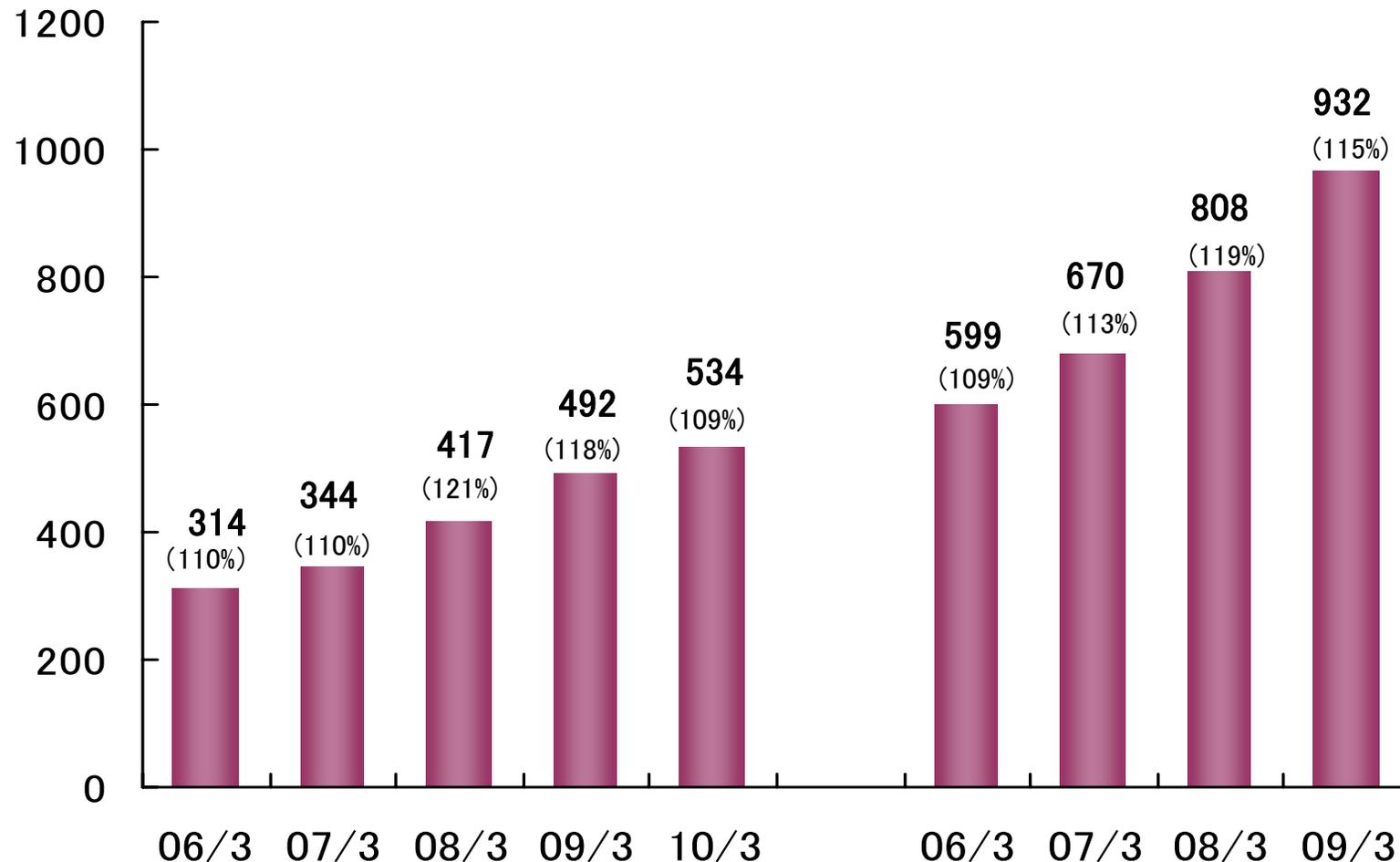
通 期

( )内は前年同期比

# 中国市場のヤマハ楽器・PA機器販売状況



(百万人民元)



上期

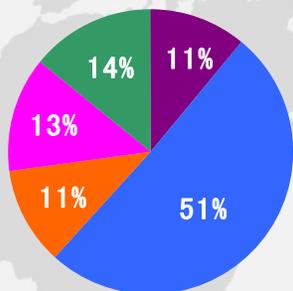
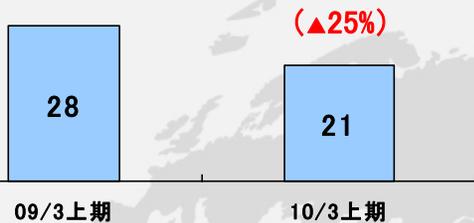
通期

( )内は前年同期比

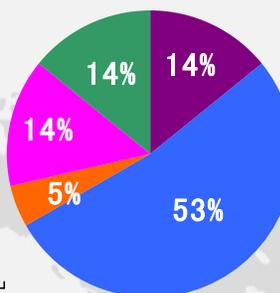
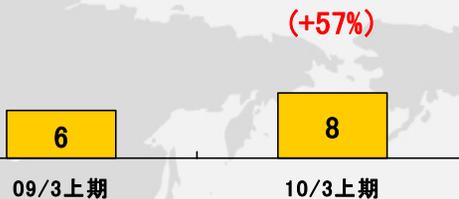
# 新興市場の販売状況

(億円)

## 東欧

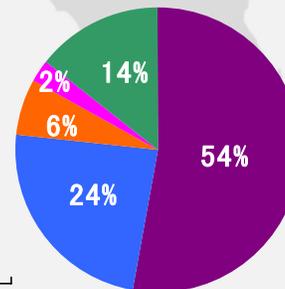
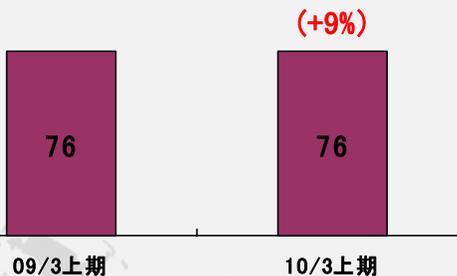


## ロシア



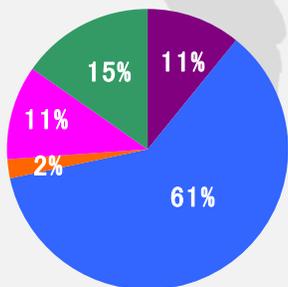
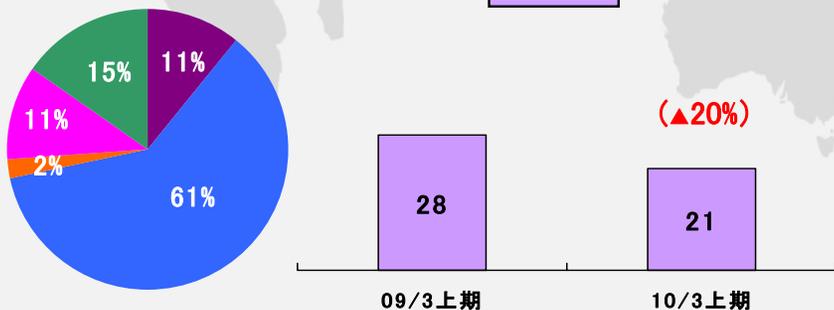
- ピアノ
- 電子楽器
- 管楽器
- 弦打楽器
- PA

## 中国

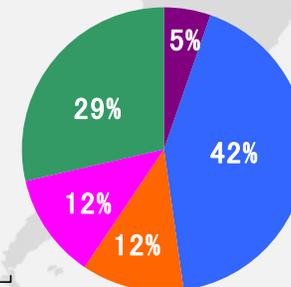
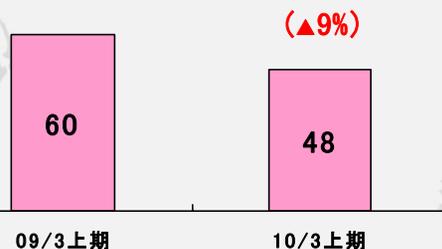


\* ( )内は為替を除いた  
実質ベースでの前期末増減

## 中東



## 中南米



この資料の中で、将来の見通しに関する数値につきましては、ヤマハ及びヤマハグループ各社の現時点での入手可能な情報に基いており、この中にはリスクや不確定な要因も含まれております。

従いまして、実際の業績は、事業を取り巻く経済環境、需要動向、米ドル、ユーロを中心とする為替動向等により、これらの業績見通しと大きく異なる可能性があります。